



大型ごみの有料化 手間と負担

費用対効果もない！。即刻やめるべき！

項目	2017・H29年度決算	2019・H31年度予算
収入	300円チケット 40771枚 1223万4500円	同 44500枚 1335万円
支出	臨時職員人件費(3名分) 印刷代・販売手数料など 1004万2743円	同 1186万6510円
収支	219万1757円	148万3490円

有料化前の市民実感調査では87.8%が「ごみの収集・処分」に満足」と回答。一般廃棄物処理基本計画アンケートでは、明確に有料化反対が32.4%、現状(無料)のままでもいいを合わせると49.1%。賛成はわずか5%でした。「有料

有料化賛成5%だけ

2016(H28)年5月から始まった「大型」ごみの有料化。長さによって300円などのチケットを購入し電話で予約。必要枚数のチケットを貼り、戸別に収集してもらおうという手間と費用負担を強いる現行の制度は即刻やめ、無料にもどすべきと3月議会(一般質問)で求めました。

「無料に戻して」広がる

化しないでください」の署名5442人分が届けられました。市は「決めてから処理のあり方を市民に説明する」と強行しました。

不法投棄処理で費用増

「無料に戻して」広がる。有料化後、「手間も費用も負担が大きくて家にゴミがたまる」「マンションでは戸別収集の恩恵はなく、電話予約と費用負担が増えただけ」と不満の声がたつ。市民実感調査(2017・H29年度)で市民の満足度は68.2%まで下落、有料化を見直してほしいという声がどんどん広がっています。

持ち込み激増で費用増

表1のように、チケット販売だけの収支をみればわずかに赤字ですが、表2のように、不法投棄処理にかかる費用を加味すれば大幅な赤字、不法投棄物総量は前年度比1.43倍、家電廃棄物数は2倍になっています。また、国崎クリーンセンター(CS)への駆け込み排出で1051万8216円(表3)を使っています。

その上、危惧していたように国崎CSへの持ち込み(10kg 80円)が激増(表4)。2018年度の搬入一般車両は2015年度比約8.5倍に。工事橋から渋滞が起こることもあり、ごみ収集車両の日

年度	金額	不法投棄総量	家電投棄物(個)
H28年度決算額	319万7000円	12060 (kg)	24
H29年度決算額	303万1000円	17290(1.43倍)	48(2倍)
H31年度予算 車3台(ダンプ含む) 職員(週4日)	282万3000円		

不公平な制度

生活保護世帯だけは減免制度がありますが、非課税世帯は一律の負担(応益負担)

常業務に影響が出ています。国崎CSは、新年度から持ち込みごみの受け付け職員の増員予算を計上しています。

表3 市の大型ごみ有料化に伴う国崎CSへの影響

(緊急措置として時間外手当や保管業務委託など)

- * 2015(H27)年度 432万9046円
- * 2016(H28)年度 618万9170円
- ※2019(H31)年度予算 持ち込みごみ受け付け人件費 287万3000円

年度	収集分(トン)	国崎CS 直接持ち込み(トン)	合計(トン)
2014(H26)年度	2437.7	72.9	2510.6
2015(H27)年度	4364.4	97.2	4461.6
2016(H28)年度	2559.2	210.4	2769.6
2017(H29)年度	627.7	389.0	1016.1
2018(H30)年度(10か月分)		604.4	※処理費用 10kg=80円

※国崎CS 2019(H31)年度予算~17900件分(一般)

※川西市から国崎CSへの持ち込みごみ車両台数の推移
2015(H27)年度 1017台(月平均 85台)
2018(H30)年度 7205台(月平均 724台)10月までの推移

が強いられます。また、約25%。17500世帯は集合住宅・マンション住まい。狭い道路に面した場所にお住まいの方々を含め、戸別収集の恩恵を受けていません。

良いことのない有料化
費用対効果も「公平」でもなく、市民負担が増え、日常の収集運搬業務にも支障をきたす大型ごみの有料化はすぐにでもやめるべきです。

また、早急に高齢者や障害者のサポート収集制度を拡充すること、戸別収集を行うよう求めたいです。

市直営の収集車はごみネットを片づけてくれる・・・でも委託の収集車はやってくれない。同じように片づけて欲しい！

大型ごみの有料化と共に「燃えるごみ」の収集が午後にごみ当番の負担は大変戸別収集して欲しい！

高齢者世帯や働く世帯が増えてごみ当番の支え合いも大変。大型ごみの処理も負担大。考え直して欲しい

